

九州経済白書  
Economic Survey of Kyushu

2012年版

# 円高と九州経済

## ～強まる生産の拠点性～



2012年版 九州経済白書

# 円高と九州経済 ～強まる生産の拠点性

# は し が き

2011年3月11日、東日本を襲った未曾有の大震災は、九州の生産機能にも影響を与えましたが、工場関係者等の努力によって予想以上に早く終息へと向かい、発生から半年後には、ほぼ正常な状態に戻りました。全国的にみると九州は軽微な影響にとどまったといえますが、重要なのは、むしろ震災後に一段と厳しくなった企業を取り巻く環境の変化にあります。とくに歴史的な高水準で定着した円高は、大手製造業を中心に海外生産の動きを強め、工場閉鎖を表明する企業が出始めました。そのため中小製造業では、納品先からの受注の減少や取引停止に強い危機感を抱いています。

しかしながら、九州ではこのような厳しい環境の中でも、製造業に一定の力強さがあります。その要因として、1つには、2000年代半ばを中心に活発だった投資によって、大型工場の立地や設備の増強が進んだこと、2つには、単なる量産工場だった九州の工場に調達や研究開発などの部門が加わり、国内生産の拠点として高度化する動きがあること、3つには、地理的にアジアに近いこととリスク分散の目的から企業進出が続いていることなどです。

3.11東日本大震災の影響が軽微だった九州は、今後、生産活動を通じて、国内の経済成長を牽引する役割も求められます。2011年12月には、九州から「グリーンアジア国際戦略総合特区」が選定されました。具体的な規制緩和が進むことで、環境産業を中心に企業活動が行いやすくなります。地域活性化特区で指定を受けた「東九州メディカルバレー構想特区」とともに、地域経済のみならず広域にわたる経済成長に寄与していくことが大いに期待されています。

45回目となる2012年版「九州経済白書」は、『円高と九州経済 ～強まる生産の拠点性』というテーマを設定しました。製造業に焦点をあて、3.11東日本大震災の影響と、その後進展した円高の影響を捉えました。そして九州が生産拠点となる現状と、2000年代に拡充していった九州の資本ストックの動向について分析を加えました。

本書が地域で活動し、社会経済を支える皆様のお役に立てば幸いです。なお作成にあたっては、ヒアリングやアンケートを通じて、多くの企業の方々にご協力をいただきました。末尾となりましたが、深くお礼を申し上げます。

2012年2月

財団法人 九州経済調査協会  
理事長 森 本 廣

# 目 次

## 総論

### 第1章 3.11東日本大震災後の九州経済

- 1. 3.11大震災が九州に及ぼした影響 ..... 1
- 2. 高まる企業の危機管理 ..... 5
- 3. 円高進行下での九州企業 ..... 8

### 第2章 生産の拠点化が進む九州の工場

- 1. 拠点性の向上と拡大基調の九州の製造業 ..... 21
- 2. 成長を支える資本ストックの蓄積 ..... 29
- 3. 企業立地のポテンシャルを高める九州 ..... 32

### 第3章 わが国の牽引役となる九州

- 1. さらなる生産の拠点化に向けて ..... 37
- 2. 企業の体力強化に向けて ..... 44

## 各論

### 第4章 リーマンショック後の製造業の経営とイノベーション

- 1. リーマンショック後の製造業の動向と経営の変化 ..... 47
- 2. イノベーションを実現する九州の製造業 ..... 53
- 3. 進む海外市場・海外生産対応 ..... 58

### 第5章 国内での拠点性を高める大規模工場

- 1. 高度化する九州の自動車工場 ..... 65
- 2. 設備・機能の拡張と縮小が混在する電機産業 ..... 81

### 第6章 経済環境の変化の下で試練が続く中小製造業

- 1. 3.11大震災後の中小製造企業 ..... 89
- 2. 深刻な中小企業の雇用の現状 ..... 95
- 3. 地域経済の担い手維持に向けた事業承継 ..... 100

### 参考資料 ..... 107

# 総論

# 第 1 章

## 3.11東日本大震災後の九州経済

### はじめに

2011年度は、直前に発生した3.11東日本大震災（以下、3.11大震災と記す）から始まった。遠く1,000km以上も離れた九州にも、半年間で大きく2つの影響が及んだ。1つは、サプライチェーン<sup>1</sup>の寸断による自動車の減産、もう1つは原子力発電所事故に伴う風評被害による外国人観光客の減少である。これらの影響は時間の経過とともに落ち着きを取り戻し、半年後にはほぼ正常に戻った。

九州は直に被災地となったわけではなかったため、直接的な影響は軽微にとどまった。しかし、重要なのは、3.11大震災でより鮮明になった、わが国がもともと抱える構造的課題への対応である。製造業を取り巻く環境は厳しくなり、とくに円高の定着は、輸出型企業を中心に九州企業にもたいへんな重荷となっている。

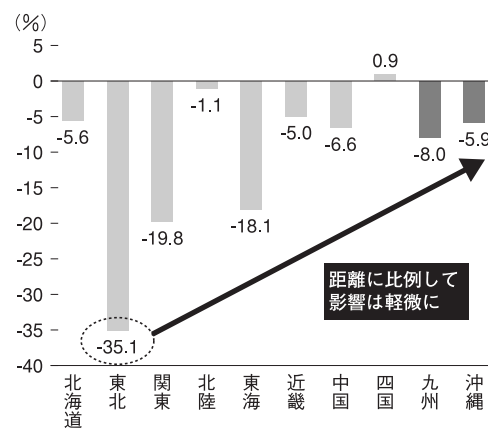
本章では、3.11大震災が九州に及ぼした影響と、生産と企業の危機管理意識の高まりについてみることにする。そして震災後に定着した円高が、九州企業に与えている影響を企業の動向から整理したい。

### 1 3.11大震災が九州に及ぼした影響

#### 3.11大震災の生産への影響は西高東低

3.11大震災による生産への影響は全国に及んだものの、地域によって差がみられた。概ね被災地からの距離に比例して落ち込み幅は小さく、西高東低型となっている。2011年3月の鉱工業生産指数（季節調整済）を前月比でみると、被災した東北と関東ではそれぞれ35.1%減、19.8%減と大きく落ち込み、東海でも18.1%減となり甚大な影

図表 1-1 地域ブロック別にみた鉱工業生産指数の前月比（2011年3月）



注) 季節調整済値。前月比  
資料) 九州経済産業局「鉱工業生産指数」

<sup>1</sup> 原材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る、製品・サービス提供のために行われるビジネス諸活動の一連の流れをさす